# 事業完了（廃止等）報告書

**調査研究期間等**

| | |
|---|---|
| 調査研究期間 | 委託を受けた日　～　平成31年３月14日 |
| 調査研究事項 | ≪委託研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ≫<br>ウ．教育課程・指導上の工夫に関すること<br>カ．その他既存の夜間中学における教育機会の提供拡充に資すること |
| 調査研究のねらい | 【横浜市立蒔田中学校】<br>年齢層、国籍、就学年数が様々に異なる生徒たちが集まる傾向がある。そのほとんどが日本語を母語としていないという現状があり、そのため、入級後は、各教科の学習目標に加えて日本語の習得が課題となる。また就学年数によって、特に数学と英語において、習熟度に差違が見られ、個々の日本語力も多様であるため、生徒一人ひとりに適した日本語教材および数学・英語教材や指導方法を検討し、夜間学級における効果的な学習指導を研究する必要がある。本研究により、魅力ある学習指導をすることによって、門戸が開かれ、より多くの外国人就学希望者に教育の機会を提供することをねらいとする。 |
| 調査研究の成果 | （総括）<br>横浜市内の夜間学級が蒔田中学校に統合され、５年目を迎えた。今年度より、10教科の非常勤講師の授業時数を約３倍に増やし、国語、社会、数学、理科、英語の授業は、各学年で習熟度別少人数授業を実施した。音楽、美術、保健体育、技術・家庭の授業は、学年ごとに実施し、夜間学級専任がＴ２として授業に入るようにした。また、日本語指導が必要な１年生には、１時間目の課題別学習（各自が学習面の課題を克服するために自分で計画的に学習に取り組む時間）に習熟度別少人数日本語指導を行ったり、横浜市教育委員会で実施している日本語教室の受講を勧めたりし、早期の日本語習得につなげた。年度途中に編入してきた日本語指導が必要な１年生のために、国語の習熟度別少人数授業は３つ目のクラスを作り、副校長が指導に当たった。これにより、全日制高校への進学を目指す生徒、日本語を学びながら教科の学習を進めたい生徒、小学校の学習内容を学びたい生徒など、今まで以上に個に応じた学びを実現することができた。<br>本校の生徒のほとんどが外国籍または外国につながる生徒のため、５年前より英語と中国語の学習サポーターを配置している。日本語指導が必要な生徒は、授業中や休み時間に通訳としてサポーターの支援を得られるので、学習内容の理解や教職員とのコミュニケーションが深まり、安心して学校生活を送ることができた。また、保護者面談の際には、横浜市教育委員会で行っている学校通訳ボランティアを活用し、夜間学級への保護者の理解と協力を得ることができた。<br>毎月実施した管理職と夜間学級専任教諭、非常勤講師か参加する担当者会では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向け |

| | |
|---|---|
| | た授業改善」に向けた各教員の実践について教員が紹介し合い、夜間学級全体において魅力ある学習指導の実践を行うことができた。「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」には、日本語指導が必要な外国籍や外国につながる生徒への授業改善に通ずるものが多く、より多くの外国人就学希望者に教育の機会を提供することにつながったと考える。<br><br>（個々の実施内容及び成果）<br>【５～６月】<br>・研究テーマおよび年間計画の確認、生徒情報の確認<br>・担当教諭との教育相談（三者面談：３日間）<br>→目的：一人ひとりの生徒の自己実現を目指し、本人に、その望ましい在り方を助言する。<br>内容：日本語の理解度について、英語の理解度について、横浜商業高校の日本語教室への参加希望について、長期休業中の様子について、生活や体調、仕事、心配事について、学習について、学校生活で分からないことについて、卒業後の進路についてなど<br>【成果】１年生から不安に思っていることなどを担任が丁寧に聞き取り、不安を取り除くことができた。日本語指導が必要な１年生 11 名に日本語教室を勧め、８名が受講を始めた。<br>・各教科の教材の検討<br>→目的・内容：生徒の学力、日本語の習熟度等に応じた教材の検討を行うことで、充実した授業展開を目指す。<br>【成果】５教科の学力や日本語の習熟度についてアセスメントを行い、習熟度別少人数授業のクラス分けを行った。日本語指導には、財団法人三重県国際交流財団発行の日本語指導のテキスト「新版みえこさんのにほんご」、「新版続みえこさんの日本語」を活用することとした。<br>・職員研修会の開催<br>→目的・内容：夜間学級に関しての有識者を招いての研修会を開催し、夜間学級の在り方や指導方法等についての研修を行う。<br>【成果】夜間学級担当者で検討し、外国籍生徒の日本語力のレベルに合わせた指導方法について、10 月に研修を行うことを決定した。（【10 月】参照）<br>・指導方法の確認（担当者会にて各教科単位で実施、）<br>→テーマ：「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」における指導上の工夫や課題について（日本語支援の方法等についても検討）<br>内容：視聴覚機器や視聴覚教材の活用<br>授業における「やさしい日本語」の活用<br>授業における教員の英語使用について |

| | |
|---|---|
| | 日本語教室の活用方法について検討<br>学習支援サポーター（英語、中国語）の活用方法について検討<br>【成果】次のことについて、担当者で共有した。<br>〇テレビや書画カメラの活用<br>〇短焦点プロジェクターとスクリーンとしての黒板活用<br>〇生徒同士で教え合う授業の大切さ<br>〇日本語習得に向け、教員は英語よりも「やさしい日本語」を使用する。<br>【７月】<br>・各教科の学習状況についての確認（担当者会にて）<br>→目的・内容：各教科の生徒の学習進捗状況を確認し、今後の授業方針を検討<br>【成果】課題のある生徒を把握し、学習サポーターの配置を確認するとともに、個に応じた指導を通し、褒めながら伸ばすことを確認した。日本語指導が必要な生徒が多いため、プリントや板書には必ずふりがなを付けることを確認した。<br>【９月】<br>・担当教諭との教育相談（三者面談：３日間）<br>→目的：一人ひとりの生徒の自己実現を目指し、本人に、その望ましい在り方を助言する。<br>内容：日本語の理解度について、英語の理解度について、横浜商業高校の日本語教室への参加希望について、長期休業中の様子について、生活や体調、仕事、心配事について、学習について、学校生活で分からないことについて、卒業後の進路についてなど<br>【成果】長期休業中の生活や学習について把握することができた。３年生は、卒業後の進路について確認する中で、高校見学や進路面談など、今後の予定について見通しをもつことができた。<br>【１０月】<br>・前期のまとめ、中間報告（職員会議にて報告）<br>・職員研修会の開催<br>→目的：外国籍生徒の日本語力のレベルに合わせた指導方法の研究を行う。<br>内容：横浜市立小学校１年生から６年生に英語を使って自分の国や地域の文化を紹介している小学校国際理解教室外国人非常勤講師を招き、ロシア語が理解できない夜間学級担当職員へロシアやロシアの文化について紹介する授業から様々な工夫について学ぶ。<br>【成果】次の①～⑦の工夫について学ぶことができた。<br>①生徒が分かっていること（知っていること）から分からないことを教える。日本のあいさつ、食べ物、スポーツ→ロシアのあいさつ、食べ物、スポ |

| | |
|---|---|
| | ーツ<br>②実物（お札、マトリョーシカ）やビジュアルエイド（写真）の活用<br>③写真よりも絵の方が、生徒の想像力を高める。日本のことは絵、ロシアのことは写真を使う。<br>④ジェスチャーの活用<br>⑤本番の前に、デモンストレーションを入れる。<br>⑥生徒が気付けることは、教えずに気付かせる。はい（ダー）、いいえ（ニェッ（ト））<br>⑦生徒の疑問を活用する。（主体性を向上）クエスチョンタイムを設ける。<br>【１１月】<br>・学習成果、日本語の習熟度等について確認（担当者会にて）<br>【１２月】<br>・各教科の教材の検討（担当者会にて各教科単位で）<br>→目的・内容：生徒の学力、日本語の習熟度等に応じた教材の検討を行うことで、充実した授業展開を目指す。<br>【成果】スモールステップの発問や指導、自分の思いや考えを自分なりに表現させること、生徒の国籍や文化のギャップを教材作成に生かすこと、生徒の国のことなど生徒が知っていることから日本のことを紹介することなどの工夫について共有することができた。<br>【１月】<br>・担当教諭との教育相談（三者面談：３日間）<br>→目的：一人ひとりの生徒の自己実現を目指し、本人に、その望ましい在り方を助言する。<br>内容：日本語の理解度について、英語の理解度について、横浜商業高校の日本語教室への参加希望について、長期休業中の様子について、生活や体調、仕事、心配事について、学習について、学校生活で分からないことについて、卒業後の進路についてなど<br>【成果】３年生は、横浜市教育委員会で取り組んでいる英検受検を行い、客観的な英語力を測ることができた。高校入試に向け、補修や面接練習を計画的に行うとともに、横浜市教育委員会が実施している日本語教室通級生徒等に向けた進路面接練習会を活用し、３年生は自信をもって受検することができた。また、インフルエンザの予防接種を３年生には推奨したため、インフルエンザにかかっても重症になることはなかった。<br>【２月】・調査研究のまとめ、研究紀要の作成<br>【３月】・年間総括、研究紀要の発行、次年度にむけての準備 |